

大分大、医学部の新学科構想案

大分大学は医学部に「メディカル・イノベーション」学科（仮称）を新設する構想案をまとめた。最先端医療を支える人材や医療政策・病院経営に通じた人材を育成する。2023年4月の設置を目指し、文部科学省と今後協議する。想定定員は45人で、新型コロナウイルス感染などのPCR検査を担える臨床検査技師などの養成を視野に入れる。

自治医科大、検温カメラ開発

自治医科大学発のスタートアップ「Ichigoo」（いちご、栃木県下野市）は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、サーモグラフィーカメラを開発した。顕微鏡開発の実績を持つ医師が手掛け、高性能なカメラに仕上げた。片手で使える小型タイプ、空港の保安検査場などに設置する据え置き型タイプの2種類。空港や病院のほか、個別企業への販売も目指す。

小樽商科大、社会人授業開講へ

小樽商科大学（北海道小樽市）は、社会人向けの教育プログラムを9月に開講する。ヘルスケア領域の社会問題を見つけ、解決策を議論する。小樽商大は帯広畜産大学、北見工業大学と2022年4月に運営法人の統合を目指しており、教育連携の一環。3大学の教授が合同で講義することもある。20年度はオンラインセミナー形式で開講する。

北陸先端大、観光人材育成へ

北陸先端科学技術大学院大学（石川県能美市）は北陸の観光産業を担う人材の育成を目的とした講座を開講する。9月から2021年1月までに施設整備や資金調達、働き方改革など12のカリキュラムを設ける。講座は19年に続き2回目。新型コロナウイルス感染拡大に対応し、収束後を見据えた観光のあり方を学ぶカリキュラムを複数加えた。